ふるさと納税

使い方に注意を
実情に合った予算編成を

小松（こまつ） 孝年（たかとし） 議員

問 総務省による、この制度の趣旨は「生まれ育ったふるさとに貢献できる制度」「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる制度」として創設された。

ふるさと納税に対する考え方や、集まった寄附金の使い道等を見た上で、応援したい自治体を選ぶように書かれているが、最近は返礼品合戦のようになっており、本来の趣旨が失われているように思われる。

本町へのふるさと納税寄附金額は昨年比の約1割減となってきており、人気の返礼品がある自治体への寄附額が異常に増え、今後も減少していくことが危惧される。

この寄附金の使い方には、その点に十分注意をして予算に組み込んでいく必要があると思うがどう考えているか。

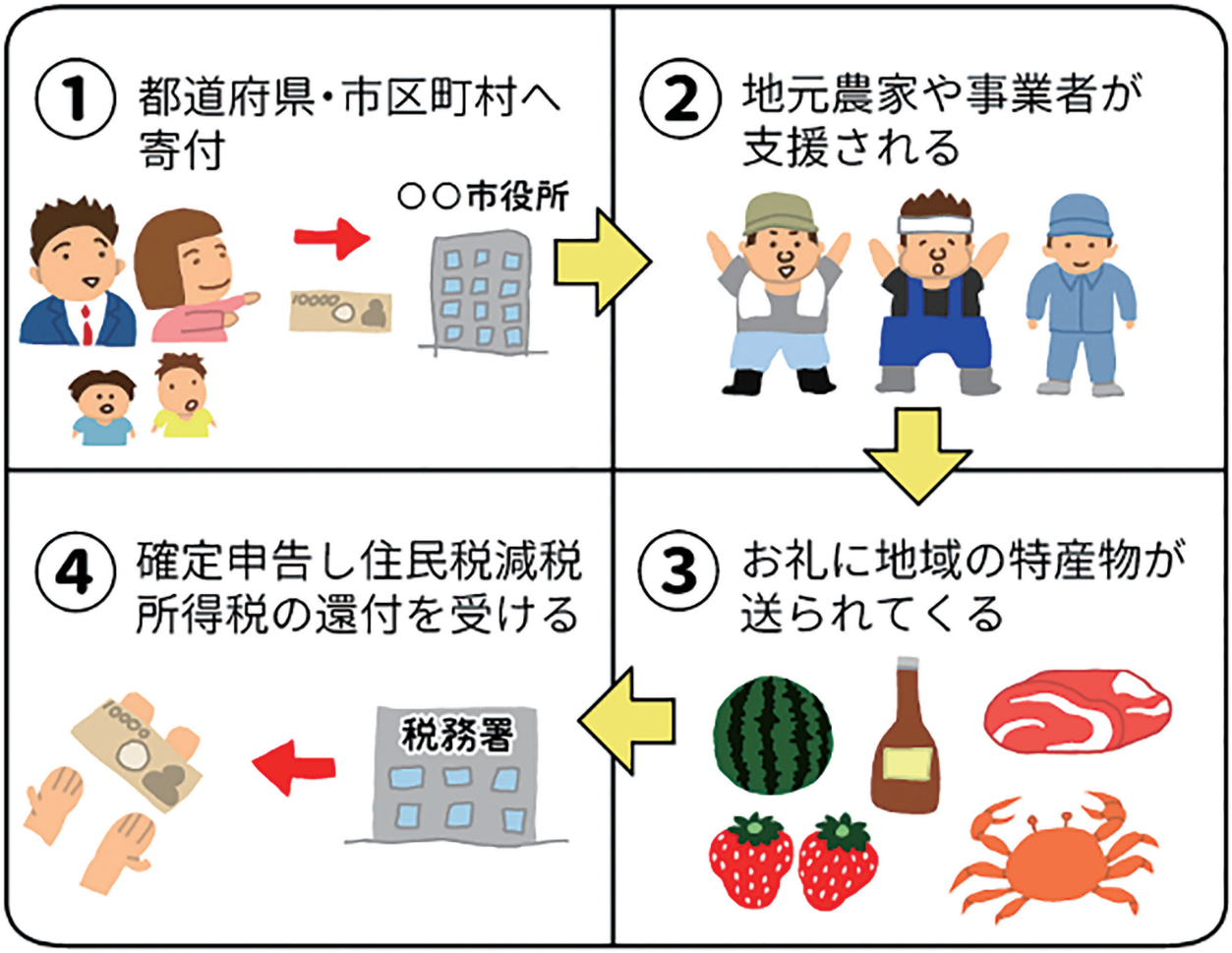
答 土居 総務課長

令和4年度決算で10億円ほどあったふるさと納税寄附金は、令和5年度決算は9億円ほどで1割減となっているが、これは県下の共通返礼品となったカツオの影響が少なからずあるものと考えられる。

ふるさと納税寄附金は、本町において貴重な収入源であり、収支の状況を踏まえつつ、寄附金の使い方については、なお一層の整理を行い、町の実情に見合った予算編成を行っていく。

問 クラウドファンディングの一種である、ふるさと納税において、リピーターや新規獲得のために寄附金の使途や趣旨等をホームページに、より詳しく記載してはどうか。

答 土居 総務課長

充当した事業の内容はホームページや広報くろしおに現在も掲載している。

ソフト事業からハード事業まで、さまざまな事業に活用しているので、どのようなものに活用したか具体的にイメージしやすい写真等を織り交ぜながら、応援してもらえる、簡潔かつ見やすい内容を心掛けていく。